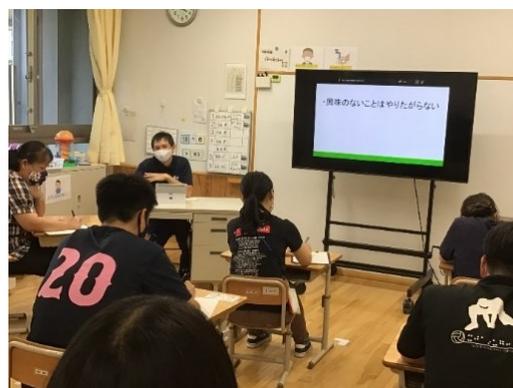


自立活動だより



自立活動自主研修会 「重複障害学級における自立活動」 (2021.10.5)

今回は、高等部重複障害学級主任の先生に重複障害学級における自立活動の指導実践について発表していただきました。小学部、中学部、高等部の重複障害学級の自立活動の授業の様子や課題など、「継続することの大切さ」をキーワードに、分かりやすく、また、参加者の方々も共感できる内容の発表をしていただきました。いろいろな取り組みを知ることができました。



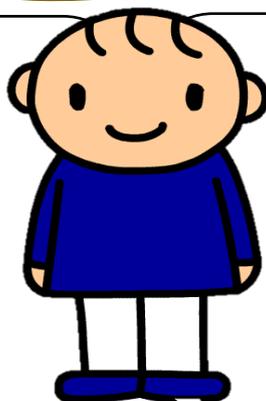
特集



ダウン症のある子どもへのアプローチ

ダウン症とは、21番染色体が通常より1本多く存在し、計3本(トリソミー)になることを原因として、多くの場合知的障害を伴います。

- ・愛嬌がある
- ・人懐っこい
- ・模倣能力が高い
- ・音楽が好き
- ・責任感が強く頑張り屋
- ・何事にも慎重



- ・肥満傾向
- ・筋緊張低下
- ・変化が苦手(頑固)
- ・視力、聴力的な弱さ
- ・おせっかい

ダウン症のある児童生徒には、これらの特徴があり、共通する傾向や行動特性はあるものの、個性は子どもの数だけ存在します。今回の特集では、教室で起こりがちな課題を三つ取り上げ、効果的な対応例を挙げていきたいと思えます。ただし、先入観をもたずにアセスメントし、子ども一人一人に合わせて手立てを考えることが基本です。

学校で起こりがちな課題その① 「場面の切り替えが難しい」



ダウン症児の中には切り替えが難しく、なかなか次の行動に移ることが難しい児童がいます。特に、楽しい場面での切り替えは難しく、対応せずに本人に任せてしまっている、いつまでも切り替えることができず、次の活動に参加できなくなってしまうます。

切り替える時間を設定するために早めに「もう少しで終わりだよ」と言葉をかけたり、時計やタイマーなどで終わりの時間を伝えるなど、視覚的に提示したりすることも有効です。

こんな対応が
有効かも？！

- ・見通しをもたせる、予告する。
- ・できそうなことを伝えておく。
- ・視覚教材で約束を提示し、目で見て思い出せるようにする。
- ・上手にできたところで活動を終えるようにする。
- ・声をかける人を変える。
- ・大人の気を引こうとしているときは、そっとしておいてから誘う。
- ・好きな活動を用意して流れにのせる。
- ・「大丈夫」「できるよ」など、前向きになれるような言葉かけをする。
- ・「〇〇する？」「△△する？」と選択させる。
- ・学習時間や内容は短く区切ってメリハリをもたせる。



学校で起こりがちな課題その② 「いたずらする、ふざける」



いたずらもふざけも、その根本にあるのは「人と関わりたい気持ち」です。それ自体は決して問題ではないのですが、度が過ぎたいたずらやふざけはコミュニケーション上の課題となっていくことがあります。

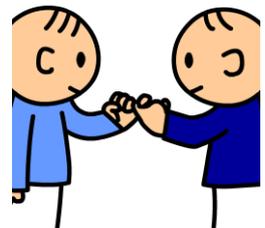
「いたずらする」「ふざける」といった行動には、以下の二つの機能があると考えられます。

- 1、気を引くためにしている場合 →気を引く別の方法を教えていく
- 2、純粹ないたずら、ふざけの場合 →限度を教えていく

「ふざけません」「やめなさい」という言葉の指導だけでは、あまり効果がありません。何のためにその行動をするのかを見極める必要があります。

こんな対応が
有効かも？！

- ・その場ですぐに望ましい行動を促す。
- ・行動の振り返りをする。
- ・事前にやってはいけないことを約束する。
- ・予測できることは事前に声かけをする。
- ・良い行動のときに注目する。
- ・〇や×のカードを使い、正しい行動に導く。
- ・話題を変え、気持ちを切り替えることができるよう促す。
- ・なにがいけなかったのか、どうすればよかったのかを端的に分かりやすく伝える。



学校で起こりがちな課題その③ 「指示拒否、指示待ち」



指示どおり行動できない理由として、「指示を理解する段階」「指示を受け入れる段階」「指示のとおり行動する段階」の三つのうち、どの段階に課題があるかで対応方法が異なってきます。

また、課題目標が高く、教師が頑張らせるような働きかけが強くなってしまうと、反発から指示を拒否してしまうことも考えられます。児童生徒にとって取りかかりやすい難易度や量の課題を設定したり、モチベーションに配慮したりすることが大切です。

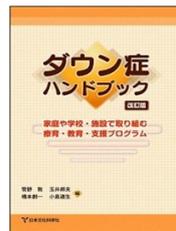
こんな対応が有効かも？！

- ・日頃から写真やイラストカードを使って活動に見通しがもてるようにする。
- ・言語指示の場合は、できるだけ単純化する。
- ・完成品(モデル)を先に見せる。
- ・気持ちを固く閉ざしてしまった場合には、他のクラスの教員に声をかけてもらう。
- ・オーバーアクション気味に伝え、楽しい気持ちで取り組めるようにする。
- ・目の前で手本を見せて、簡単なものから取り組めるようにする。
- ・行動できないときは身体誘導で行動のきっかけをつくる。
- ・「〇〇したら、次に〇〇できる」などの約束やきまりごとをつくる。
- ・笑顔が出たら冗談などを言いながら、次の行動に促す。

ダウン症関連書籍の紹介



「ダウン症のある子どもへのアプローチ 222」
佐藤功一 著
田研出版株式会社



「ダウン症ハンドブック改訂版」
菅野敦 著
日本文化科学社



「ダウン症児をたくましく育てる教室実践」
佐藤功一 著
田研出版株式会社



「ダウン症児の学びとコミュニケーション支援ガイド」
玉井浩・里見恵子編
診断と治療社

<参考文献>

- 「ダウン症のある子どもへのアプローチ 222」 佐藤功一著 田研出版株式会社
「ダウン症児をたくましく育てる教室実践」 佐藤功一著 田研出版株式会社
「実践障害児教育 2013年11月号」 実践障害児教育編集部 学研